

第 7 章 農地排水対策意識調査結果

農地排水対策における意識調査は、図 7-1 に示すよう五丁川の受益地である以下の 7 地区において実施した。

なお、括弧内の人数は、アンケート回答者数を示す。

- 1) 浅川地区 (3 人)
- 2) 砂川地区 (5 人)
- 3) 御船地区 (3 人)
- 4) 沖塘地区 (4 人)
- 5) 耕地地区 (5 人)
- 6) 宇土割地区 (4 人)
- 7) 北出村地区 (5 人)

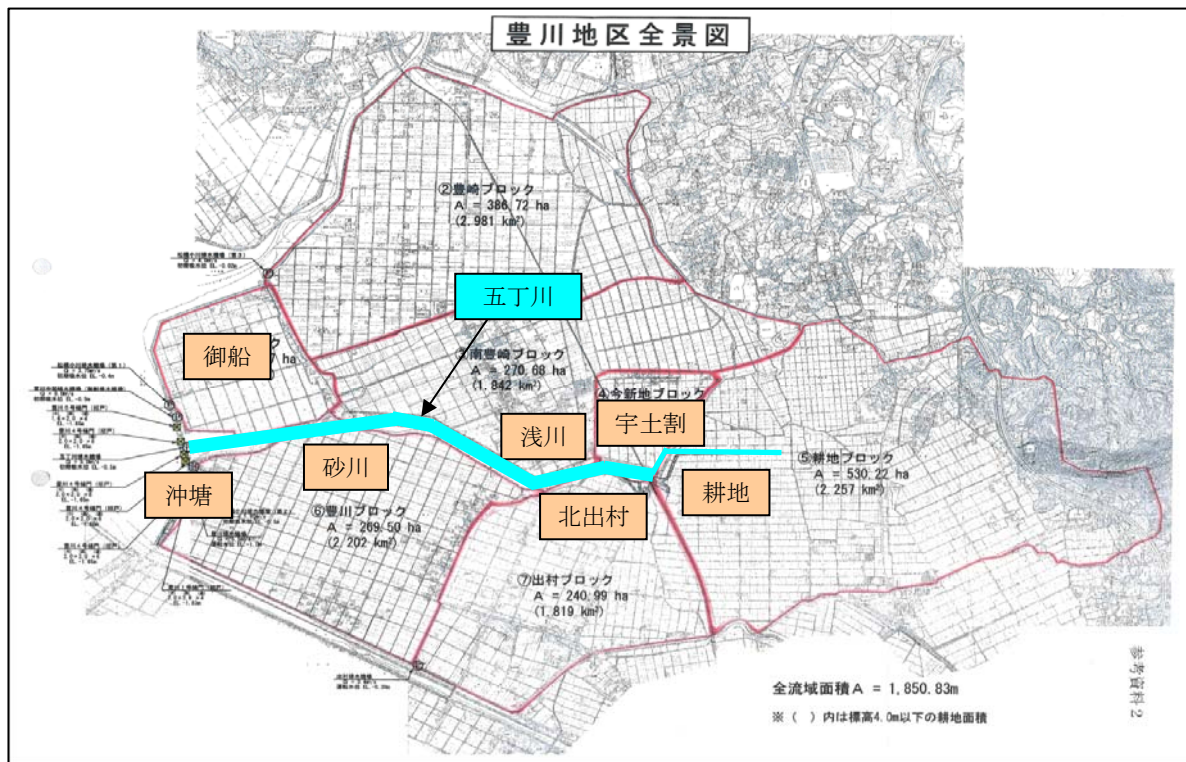


図 7-1 ヒアリング調査地区

上記 7 地区で実施した農地排水対策における意識調査により、得られた意見を以下に示す。

①農地排水対策

- ・用排水の整備が必要である。
- ・排水ポンプの増強が必要である（滞筋確保、内水地の洪水・排水対策）。
- ・現状の施設の排水機能では将来不安である。
- ・豊川各樋門の滞筋の整備・浚渫が必要である。
- ・用排水路の堆積土砂の定期的な浚渫が必要である。
- ・五丁川の水位を調整する堰が必要である。
- ・潮受け堤防（不知火干拓と松合間）を設ける。
- ・五丁川流末から沖合までヒューム管で排水する。
- ・湾奥部を干拓するべきである。

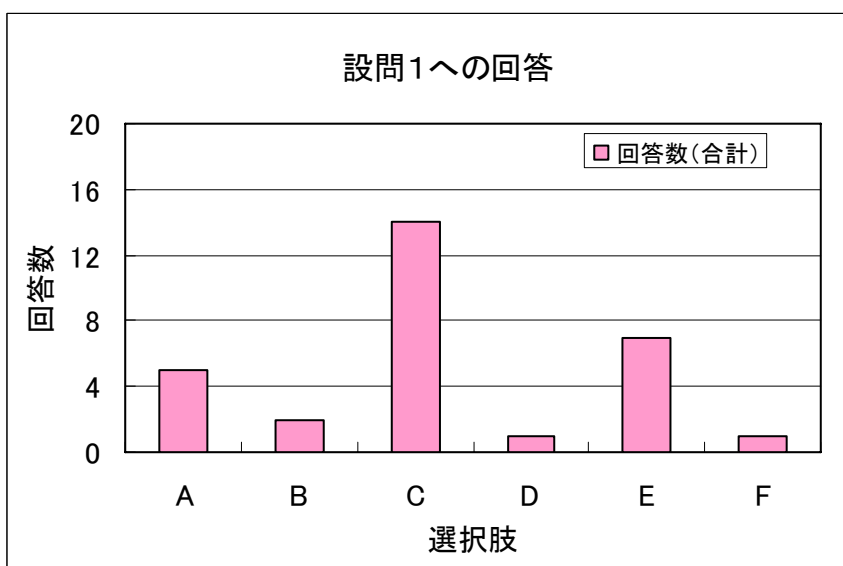
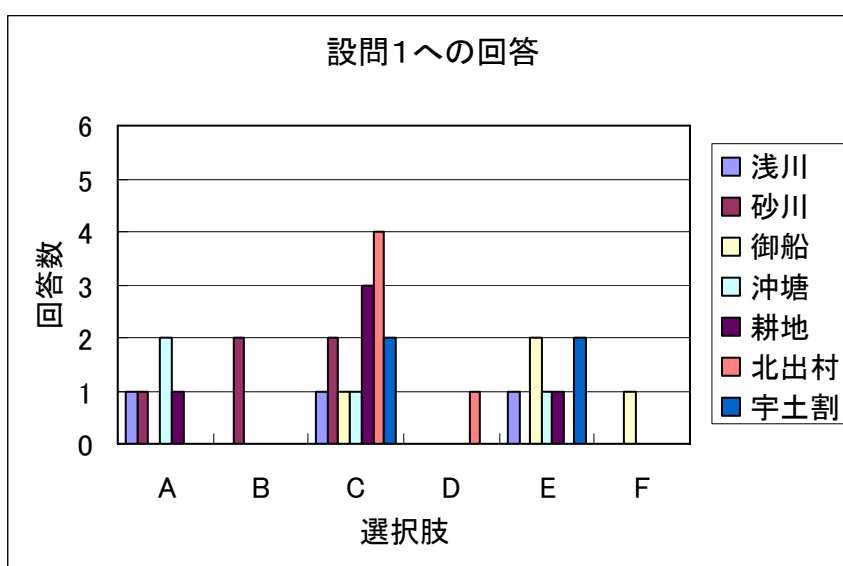
②浚渫土砂利用対策

- ・浚渫土砂を陸地利用する。
- ・浚渫土砂で堤防を造成する。

質問 1 地区の排水状況はどのような状況ですか。

(番号を選択または記入してください。)

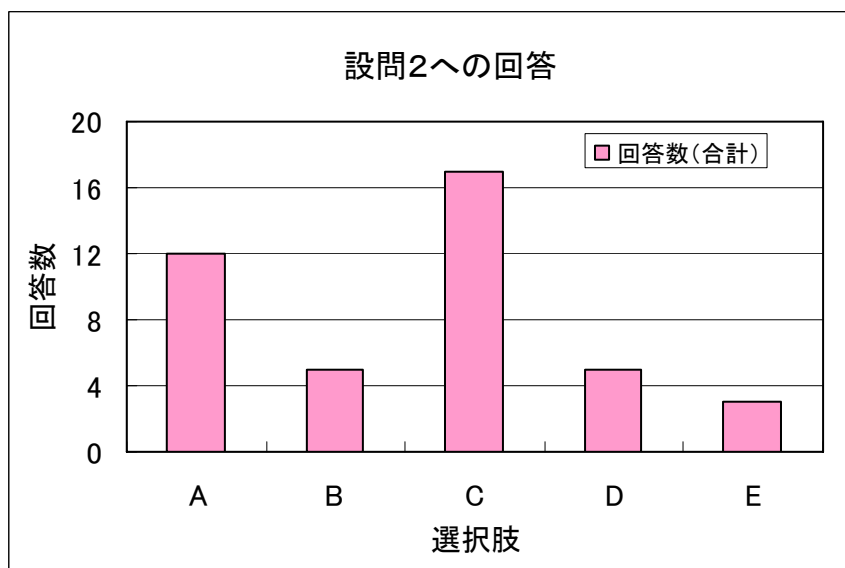
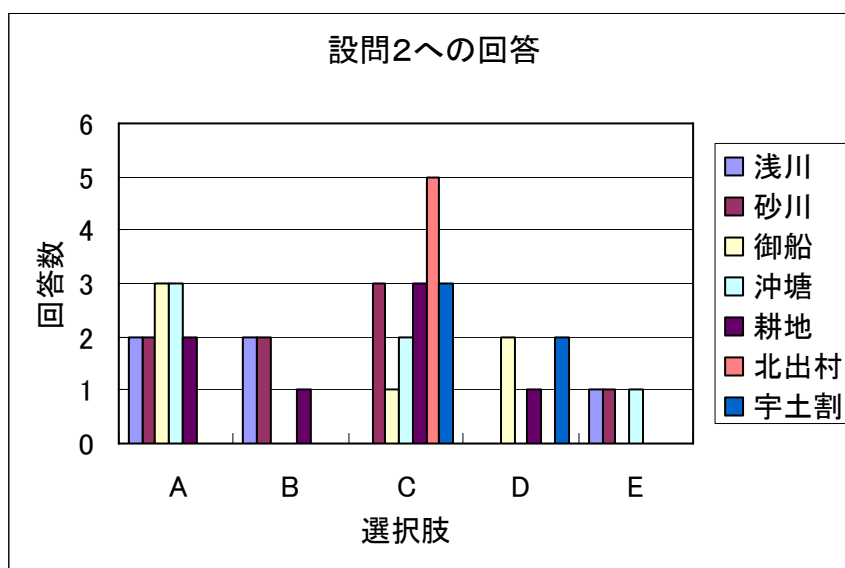
- A. ちょっとした（警報・注意報未発令）雨で、水路があふれたり、農地が浸かったりする。
- B. 大雨洪水注意報の状況での降雨で、水路があふれたり、農地が浸かったりする。
- C. 大雨洪水警報の状況での降雨で、水路があふれたり、農地が浸かったりする。
- D. 過去においてもほとんど水路があふれたり、農地が浸かったりすることはない。
- E. 今は水路があふれたり、農地が浸かったりすることがあまりないが、将来が不安である。
- F. その他（具体的に記入願います）。



※回答数は複数回答分や回答なし分を含む

質問2 水路があふれたり、農地が浸かったりする原因は何だと考えていますか。
(番号を選択または記入してください。)

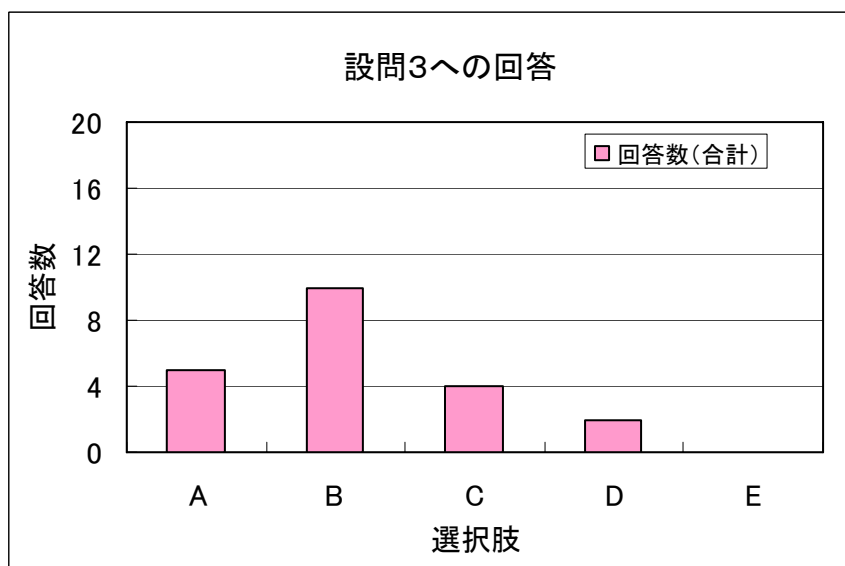
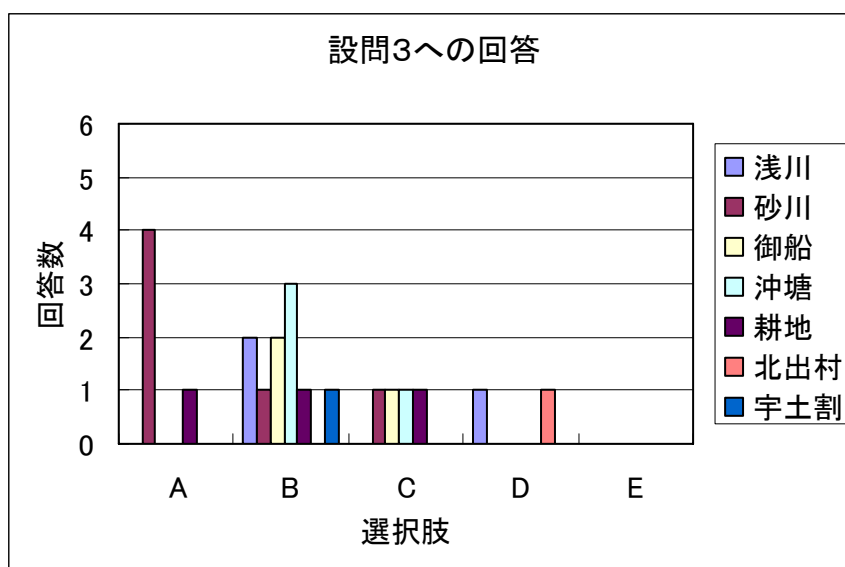
- A. 干潟の発達により排水樋門のミオ筋が泥で埋まってしまうため。
- B. 排水樋門が古くなり樋門の開閉等の操作性が悪くなったため。
- C. 干潟の発達により五丁川の水の流れによる排水する力が弱くなったため。
- D. 流域内の開発（農地の宅地化等）により降った雨がすぐに流れてくるようになったため。
- E. その他（具体的に記入願います）。



※回答数は複数回答分や回答なし分を含む

質問3 排水樋門のミオ筋はいつ頃から泥がひどくたまるようになりましたか。
(番号を選択または記入してください。)

- A. 不知火干拓（昭和42年）以前から、ひどくたまっていた。
- B. 不知火干拓（昭和42年）以降から、ひどくたまるようになった。
- C. 排水機場の設置後から、ひどくたまるようになった。
- D. 豊川4号樋門改修後から、ひどくたまるようになった。
- E. その他（具体的にいつ頃かわかりましたら記入願います）。

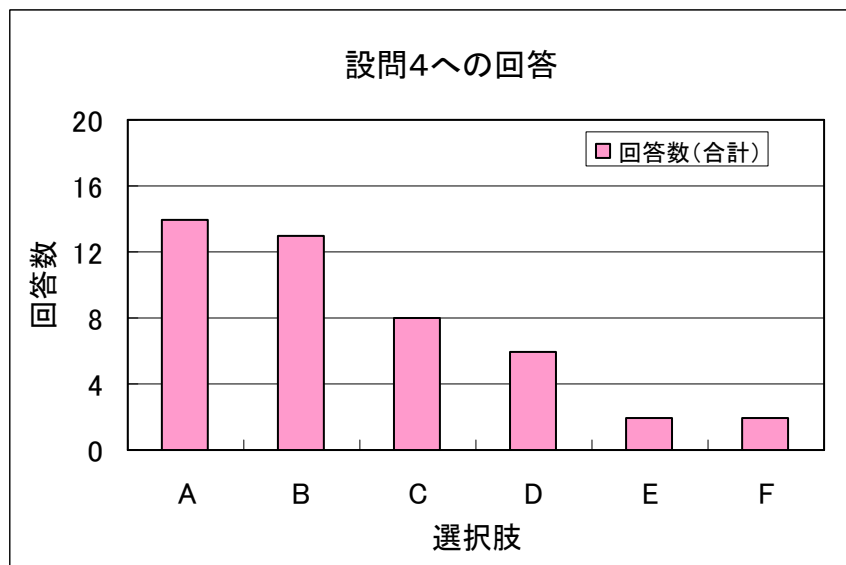
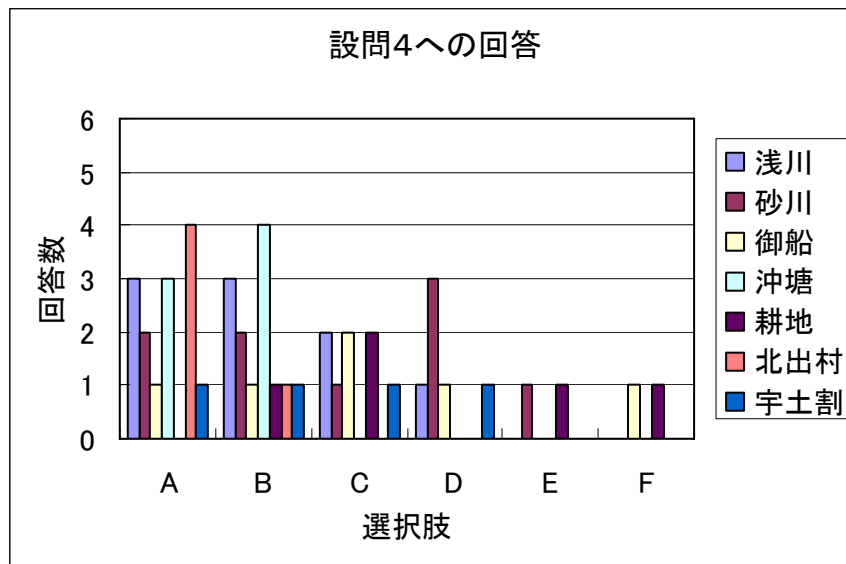


※回答数は複数回答分や回答なし分を含む

質問4 水路があふれたり、農地が浸かったりする状況は、今後、どのようにすれば解消され
とを考えていますか。

(番号を選択または記入してください。)

- A. ポンプ場を増やすことにより排水力を大きくする。
- B. 排水樋門前面の現在あるミオ筋の定期的な泥の除去を行う。
- C. 五丁川の流れの力（自然排水の力）を利用したミオ筋の泥の除去（フラッシング）を定期的に行う。
- D. 複数ある排水樋門の整理、統廃合（地区の排水形態の見直し）を行う。
- E. 雨により浸かる農地を、盛土で高くする（客土）を行う。
- F. その他（具体的に記入願います）。



※回答数は複数回答分や回答なし分を含む